

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」あまん きみこ作

めあて

「名前を見てちょうだい」のかんそうをはっぴょうし合おう。

お話に出てくる「人物」

- ・ えっちゃん
- ・ きつね (のはらこんきち)
- ・ お母さん
- ・ 牛 (はたなかもうこ)
- ・ 大男

○かんそう

(1) おもしろかったところ

- ・ 風がふいてきてぼうしがとばされてしまうところ
- ・ えっちゃんがおこつてぐわあんと大きくなるところ
- ・ 大男が風船のようにしぼんでしまうところ

(2) ふしぎに思ったこと

- ・ ぼうしの名前がどんどんかわっていくところ
- ・ えっちゃんの体の大きさがかわるところ

(3) げきにしてみたいところ

- ・ きつねと牛が大男に会ったときにげだしてしまうところ
- ・ えっちゃんが大男に立ちむかうところ
- ・ えっちゃんが、もどつてきたぼうしをかぶつてあそびに行くところ

(4) みんなで考えたいこと

- ・ えっちゃんは大男に会ってもなぜにげなかったのだろう。
- ・ なぜ、えっちゃんはぼうしをとりかえすことができたのだろう。

学習かだい

「一年生にものごたりのおもしろさをつたえるために、人物の気もちがあらわれるように音読げきをしよう。」

【1 / 15 時間目 指導略案】

使用するワークシート①

活動のねらい

教材文に興味をもち、初発の感想を発表し合うことができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 感想を書く視点を示しておく。

2 全文の読み聞かせを聞き、感想を書く。

- 読み聞かせの後に、登場人物を確認する。
- ※ 児童が楽しく学習できるように、クイズを出しながら登場人物を押さえるといでしよう。
- 視点ごとに感想を発表させる。

評価 興味をもって教材文を読み、感想を発表しようとしている。(ア1)

3 音読劇をすることを知り、学習課題としての意識をもつ。

- 学習課題として、「二年生に物語のおもしろさを伝えるために、人物の気持ちが表示するように音読劇をしよう。」と投げかけ、音読劇への意欲を高めさせる。
- 人物の気持ちや伝わるように音読するには、人物になりきって気持ちを考えることが大切であることを押さえる。

4 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、場面を分けることを知らせる。

人物じんぶつのようすや気持ちきもちに気をつけて読もう

①

二年

めあて

| |
|--|
| |
|--|

○ はじめのかんそう

| |
|--|
| |
|--|



この場めんがおもしろかったよ。



このところをげきにしたら楽しそうだな。

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

かんそうをはっぴようすることができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

たんげんのめあて 「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

「名前を見てちょうだい」の音読げきをせいこうさせよう。

一年生におもしろさがつたわる音読げきにするためには・・・
 ・とうじょう人物の気もちを考え、なりきって音読する。
 ・会話文の読み方をくふうしたり動きをつけたりする。

めあて 音読げきをするために学しゅう計画を立てよう。

○学しゅうのすすめ方

| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | | 時間 | ふりかえり |
|--------------------------|------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------|-----------------|--------|----|-------|
| はつぴょう会をして、学しゅうのふりかえりをする。 | はつぴょう会のれんしゅうをする。 | 会話文の読み方を出し合い、とう場人物の気もちを考える。 | 「名前を見てちょうだい」のお話のながれをたしかめる。 | 学しゅう計画を立てる。 | はじめのかんそうをつたえ合う。 | 学習すること | 1 | |
| 4 | 2 | 6 | 1 | 1 | 1 | | | |

【2 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート②

活動のねらい

「名前を見てちょうだい」の音読劇をするために学習計画を立て、単元の見通しをもつことができるようにする。

1 単元のめあてを知る。

○ 「名前を見てちょうだい」の音読劇を通して、人物の様子や気持ちについて考えていくことを知らせる。

2 音読劇を成功させるためには、どんなところに気をつけて読んだらよいか考える。

【発問】一年生に「名前を見てちょうだい」のおもしろさを伝えるためには、どんなことをがんばったらよいでしょう。

※ これまでに言語活動としての経験がある劇化などでの工夫を思い出させるとよいでしょう。

○ 児童から出た意見は、整理しながら板書する。

3 音読劇の発表までの学習の計画を立てる。

○ これまでの物語の学習を想起させながら、児童と教師と一緒に学習計画表を完成させていく。

評価 音読劇に興味・関心をもち、進んで学習の計画を立てようとしている。

(ア1)

4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ ワークシートで自己評価をさせる。

○ 次時は、挿絵を手がかりに場面分けをし、物語の大まかなあらすじをとらえることを伝える。

人物のようすや気もちに気をつけて読もう

②

二年

めあて

○ 学しゅうのすすめ方をたしかめよう。

| | | | | | | | |
|-------------------------|---|---|---|---|---|-----------------|----|
| | | | | | | | |
| | | | | | | 学しゅうすること | |
| | | | | | | はじめのかんそうをつたえ合う。 | |
| | | | | | | 学しゅう計画を立てる。 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | | 時間 |
| はつぴょう会をして学しゅうのふりかえりをする。 | | | | | | | |
| 4 | 2 | 6 | 1 | 1 | 1 | | |

○今日の学しゅうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

音読はつぴょう会にむけての学しゅうのすすめ方がわかりましたか。

◎

○

△

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | さし絵 | <p>○お話のじゅんじょ</p> <p>めあて</p> <p>人物のようすや気持ちに気をつけて読もう</p> <p>「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作</p> <p>お話をじゅんばんどおりにならべよう。</p> <p>場めんのだい名</p> |
| 六 | 五 | | 四 | | 三 | 二 | 一 | <p>えつちゃんがお母さんからぼうしをもらう場めん</p> <p>ぼうしが風にさらわれる場めん</p> <p>えつちゃんがきつねと出会う場めん</p> <p>えつちゃんが大男に立ち向かう場めん</p> <p>えつちゃんがあそびに行く場めん</p> | |

【3 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート③

活動のねらい

挿絵を手がかりに場面分けをし、物語の大まかなあらすじをとらえることができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

○ 拡大した八枚の挿絵を見せ、場面の順番に合うように並べ替えることに意欲をもたせる。

2 挿絵を手掛かりに場面を分ける。

【発問】挿絵はどのような順番に並べればよいか。

○ 八枚の挿絵はカード形式にして全員にもたせ、場面の順番通りになるように、ワークシート上で操作させる。板書でも挿絵の並べ替えを行い、教科書で確認しながら、全員が正しい順に並べることができるようにする。

※ 挿絵並べ替え用のワークシートをB4またはA3サイズに拡大して使用せるとよいでしょう。

3 各場面に題名を付ける。

○ 並べ替えた挿絵を基に、本文を大きく六場面に分けることを提案する。

○ 「だれ（何）が」「どうした」場面かを教科書の本文を手掛かりにして、場面の題名を考えさせる。

※ 一の場面の題名を全員で一緒に考えて書くと、児童は、各場面の題名が付け易くなります。

評価 出来事の場面や様子を意識して、場面ごとに題名を付けようとしている。

(イ1)

4 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ ワークシートで自己評価をさせる。

○ 次時は、一、二の場面を学習することを知らせる。

人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

③

二年

めあて

○ さし絵をならべなおして、場めんのだい名をつけよう。

| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---------|
| | | | | | | | | さし絵 |
| | | | | | | | | 場めんのだい名 |
| | | | | | | | | 場めん |
| | | | | | | | | 場めん |
| | | | | | | | | 場めん |
| | | | | | | | | 場めん |
| | | | | | | | | 場めん |
| | | | | | | | | 場めん |

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。

◎よくできた

○だいたいできた

△もう少し

場めに合うだいなをつけてきました

か。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読よもう

「さし絵さしえならべかえワークシート」

二年

○ お話をじゅんばんどおりにならべよう。

- ① 八まいのさし絵を出てきたじゅんばんにならべましょう。
- ② 分からないときは、きょうか書でたしかめましょう。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | 3 | 2 | 1 |
| | | | |
| 8 | 7 | 6 | 5 |
| | | | |

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

めあて

えっちゃんがお母さんからぼうしをもらう場めの音読のくふうを考えよう。

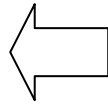
○気もちが分かるころ



会話「
人物のうごき
ぼうしのようす

○どんな ぼうし？

- ・赤い すてきな ぼうし
- ・リボンが ついている ぼうし
- ・青い 糸で 名前が ししゅうしてある ぼうし
- ・お母さんに もらった ぼうし



読み

- ・うれしい読み
- ・にっこり読み
- ・お母さん大すき読み

えっちゃんがかぶ
ぼうしを挿
っている挿絵

う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。

- ・赤い色がすてきだから気に入ったよ。
- ・名前をししゅうしてもらったからうれしいな。
- ・お母さんにもらったぼうしだからだいじにするね。

【4 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート④

活動のねらい

一、二の場面の会話文の音読の仕方を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

2 えっちゃんがお母さんからぼうしをもらう場面（一、二の場面）を音読し、会話文の音読の工夫について自分で考える。

【発問】「う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。」はどのように読んだらよいでしょう。

※ 教材文は拡大して、移動黒板などに貼っておくとよいでしょう。または、あらかじめ根拠となる叙述を予想して、短冊に書いて用いることもできます。

○ えっちゃんの行動や帽子の様子から、えっちゃんの気持ちを考えることができることを押さえ、会話文だけでなく、地の文にも目を向けさせる。

○ 音読の工夫を「読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

3 音読の工夫について話し合う。

○ まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

○ 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中で、えっちゃんの行動や様子に目を向けさせていき、えっちゃんの帽子に対する思いに気付かせる。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

○ ワークシートの吹き出しに、「う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 帽子をもらったえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。(イ1)

○ 書いた内容を発表させ、帽子を大事にしているえっちゃんの気持ちを押さえる。

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。

○ 次時は、三の場面を学習することを知らせる。

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読よもう

④

二年

めあて

○ えっちゃんの気もちをそつぞうして、音読のくふうを考えよう。

読み

えっちゃんがぼうしをかぶっている挿絵

う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

ぼうしをもらったえっちゃんの気もちをそつぞうすることができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

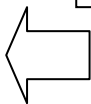
「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

野原でえっちゃんがつつねと出会う場めの音読のくふうを
考えよう。

○きつね(のはらこんきち)のようす

- ・ 赤いぼうしをちよこんとかぶっている。
- ・ 白いすすきをもって、プープーふいている。
- ・ すましてこたえた。
- ・ しぶしぶぼうしをぬいで見せた。

「へんねえ。」



読み

- ・ ふしぎだなあ読み
- ・ おこりんぼう読み
- ・ こまったなあ読み

きつねがぼうしをかぶっている挿絵のコピー

へんねえ。

- ・ あたしの名前が書いてあるはずなのに、おかしいなあ。
- ・ なんてあたしの名前がかいてないんだらう。
- ・ あたしのぼうしはどこに行ったんだらう。
- ・ きつねさん、うそをついているんじゃないかな。

【5 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑤
活動のねらい

三の場面の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 前時の場面での、えっちゃんの大切な帽子が、風にさらわれて野原に行ってしまったことを想起させ、本時のめあてにつなげる。

2 野原でえっちゃんがつつねと出会う場面(三の場面)を音読し、音読の工夫について自分で考える。

【発問】「へんねえ。」はどのように読んだらよいでしょう。

- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べるができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

- 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中で、えっちゃんの行動や様子に目を向けさせていく。また、きつねがぼうしを返す気がないことにも気付かせる。

※ 役割読みをすると児童は人物の気持ちを楽しく考えることができます。(児童がえっちゃんの会話文を読み、教師がきつねの会話文や地の文を音読する等)話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

- ワークシートの吹き出しに、「へんねえ。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 帽子の名前が変わっているのを知ったえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。(イ1)

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- きつねの行動や名前の変化からもえっちゃんやんの気持ちが想像できたことを押さえる。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、四の場面を学習することを知らせる。

人物のようすや気もちに気をつけて読もう

⑤

二年

めあて

○ えっちゃんの気もちをそっぞっして、音読のくふうを考えよう。

読み

きつねがぼうしをかぶっている挿絵

へんねえ。

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

きつねと出会ったえっちゃんの気もちをそっぞうすることができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作
めあて

こがね色のはたけでえっちゃんや牛と出会う場めの音読のくふうを考えよう。

牛のようす

○きつねとにているところ

- ・赤いぼうしをちよこんとかぶっている。
- ・すましてこたえた。

- ・しぶしぶぼうしをぬいで見せた。

○ちがうところ

- ・野原 — こがね色のはたけ（場しよ）
- ・青い空をまぶしそに見上げていた。

— 白いすきをもつてプープーふいていた。（ようす）

・はたなかもうこ — のはらこんきち （名前）

「へんねえ。」

読み

へんねえ。（きつね）
・さつきまではぼくの名前だったんだけどなあ。
・なぜ「はたなかもうこ」と書いてあるんだろう。

- ・ふしぎだなあ読み
- ・こまったなあ読み
- ・なきそう読み

へんねえ。（えっちゃん）
・また名前が変わってる。
・なんでみんな同じぼうしをもってるんだろう。
・あたしのぼうしだと思っただけどなあ。
・ほんとうに牛さんのかなあ。

牛がぼうしをかぶっている挿絵

【6 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑥
活動のねらい

四の場面の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんときつねの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 前時の場面では、えっちゃんの帽子をかぶり、名前のししゅうも変わっていたことを想起させ、本時のめあてを確かめる。

2 こがね色の畑でえっちゃんが牛と出会う場面（四の場面）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

- 板書を参考に、三の場面と四の場面では、場面の展開が似ていることを押さえた上で、違いを発表させ、繰り返しの構成になっていることに気付かせる。
- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。
- 会話文以外の地の文にも着目させ、えっちゃんときつねの会話文の音読の工夫を考えさせる。

【発問】えっちゃんときつねの「へんねえ。」はどのように読んだらよいでしょう。
※ だれがどの言葉を会話として話しているか、学級全体で確かめることも重要でしよう。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんときつねの気持ちを想像する。
○ ワークシートの吹き出しに、「へんねえ。」に続くえっちゃん、きつねの言葉を書かせる。

評価 えっちゃんときつねの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。（イ1）

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、五の場面前半を学習することを知らせる。

人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

⑥

二年

めあて

○ えっちゃんときつねの気持ちをそうぞうして、音読のくふうを考えよう。

読み

【きつね（のはらこんきち）】

へんねえ。

読み

【えっちゃん】

へんねえ。

牛がぼうしをかぶっている挿絵

○今日の学しゅうをふりかえりましょう。

◎よくできた

○だいたいできた

△もう少し

えっちゃんときつねの気持ちをそうぞうするこ
とができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

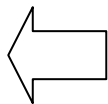
「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

七色の林でえつちゃんが大男に出会う場面（五の場めん前はん）の音読のくふうを考えよう。

○大男のようす

- ・木よりも高い大男がどかんと
- ・じろりと見下ろした。
- ・したなめずりをして、じろりじろりと見下ろしながら

○きつねと牛



読み

大男が手にぼうしをのせている挿絵

- ・こわいなあ読み
- ・こまったなあ読み
- ・なきそう読み

- 早くかえらなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。
- ・このままここにいたら、自分もたべられちゃうぞ。
 - ・ぼうしなんかどうでもいい。自分のいのちがだいじだ。
 - ・ほんとうはいそがしくないけど、大男がこわいからかえろう。

【7 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑦
活動のねらい

五の場面前半の会話文の音読の工夫を話し合うことで、きつねや牛の様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 前時の場面では、えつちゃんの帽子を牛がかぶり、名前のししゅうも変わっていったことを想起させる。

2 七色の林でえつちゃんが大男に出会う場面（五の場面前半）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

【発問】きつねと牛の「早く帰らなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。」はどのように読んだらよいでしょう。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

- 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中できつねや牛の行動や様子に目を向けさせていく。

4 話し合ったことを基に、きつねと牛の気持ちを想像する。

- ワークシートの吹き出しに、「早く帰らなくっちゃ（ね）。いそがしくて、いそがしくて。」に続くきつねと牛の言葉を書かせる。

評価 きつねと牛の気持ちを想像して、吹き出しに書いている。 (イ1)

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、五の場面後半を学習することを知らせる。

人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

⑦

二年

めあて

○ きつねと牛の気持ちもそうぞうして、音読のくふうを考えよう。

読み

大男が手にぼうしをのせている挿絵

【きつね（のはらこんきち）・牛（はたなかもうこ）】
早く かえらなくっちゃ(ね)。いそがしくて、いそがしくて。

○今日の学しゅうをふりかえりましょう。

◎よくできた

○だいたいできた

△もう少し

きつねと牛の気持ちもそうぞうすることができましたか。

◎

○

△

人物のようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

えっちゃんが大男に立ちむかう場面（五の場面後はん）の音読のくふうを考えよう。

○きつね・牛 ↓ 帰った

○えっちゃん ↓ 帰らなかった

読み

- ・きりり読み
- ・いかり読み
- ・かえせ読み

「あたしは帰らないわ。だって…」

「食べるなら食べなさい。あたし…」

大男を見上げて
えっちゃんの
挿絵

あたしの ぼうしを かえしなさい。

・せっかくお母さんにもらったぼうしをなくして
たまるもんですか。

・お母さんにもらったぼうしをとりかえすまで
ここにいますよ。

・なんであたしのぼうしを食べるのよ。

・早くかえさないともおこるわよ。
こわいけど、ぼうしはぜったいにとりかえすよ。

大男の顔の挿
絵のコピー

えっちゃんが
差し出して
いる挿絵の
コピー

しぼんだ大男
の挿絵

【8 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑧
活動のねらい

五の場面後半の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

○ 前時の場面では、きつねと牛が大男に怯えて帰ってしまったことを想起させ、えっちゃんの行動と比べさせてから、本時のめあてにつなげる。

2 えっちゃんが大男に立ち向かう場面（五の場面後半）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

○ 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。
【発問】「あたしは帰らないわ。だって…」 「食べるなら食べなさい。あたし…」 はどのように読んだらよいでしょう。

3 音読の工夫について話し合う。

○ まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

○ 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。

※ えっちゃんは大男のことを「怖い」のか「怖くない」のか問いかけることで、母親や帽子に対してのえっちゃんの強い思いを感じ取らせてもよいでしょう。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

○ ワークシートの吹き出しに、「あたしのぼうしをかえしなさい。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 大男を前にしたえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いていく。
(イ1)

5 大男に勇敢に立ち向かうえっちゃんの気持ちを押さえる。

○ 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。
○ 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
○ 次時は、六の場面を学習することを知らせる。

人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

⑧

二年

めあて

○ えっちゃんの気持ちもそうぞうして、音読のくふうを考えよう。

読み

えっちゃんが大男に
手を差し出している
挿絵

あたしの ぼうしを かえしなさい。

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。

◎よくできた

○だいたいできた

△もう少し

大男に立ちむかうえっちゃんの気持ちもそうぞ

うすることができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

めあて

えっちゃんがあそびに出かける場めん（六の場めん）の音読のくふうを考えよう。

えっちゃん↓きつね↓牛↓大男↓えっちゃん

読み



黒板で帽子の絵を動かして、帽子が無事にえっちゃんに戻ってきたことを確認する。

- ・うれしい読み
- ・よかったなあ読み
- ・ほっとしたなあ読み

えっちゃんが帽子をかぶって遊びに行っている挿絵のコピー

ああ、よかった。
 ・お母さんが作ってくれたすてきなぼうしがもとにもどってよかった。
 ・大男からぼうしをとりもどすことができてよかった。
 ・ちゃんとわたしの名前になってよかった。
 ・もうだいじょうぶ。これであん心してあそびにいけるわ。
 ・ぼうしがもどってきてうれしい。

「名前を見てちょうだい」のおもしろさ

- ・ぼうしの名前がどうぶつの名前にかわるところ
- ・大男が出てくるところ
- ・えっちゃんが大きくなったたり小さくなったたりすること

ふしぎなところがある。

【9 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑨
 活動のねらい

六の場面の会話文の音読の工夫を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

- 帽子が戻ってくるまでの場面を振り返り、本時のめあてにつなげる。

※ 黒板で、帽子の絵を動かしながら帽子が再びえっちゃんの元に戻ってきたことを視覚的にとらえさせるとよいでしょう。

2 えっちゃんが遊びに出かける場面（六の場面）を音読し、音読の工夫について自分で考える。

- 音読の工夫を「く読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

【発問】「ああ、よかった。」はどのように読んだらよいでしょう。

3 音読の工夫について話し合う。

- まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べるができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

- 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

- ワークシートの吹き出しに、「ああ、よかった。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 帽子が戻ってきたえっちゃんの気持ちを想像して吹き出しに書いていく。
 (イ1)

- えっちゃんが安心して遊びに行く様子をとらえさせる。

- 物語全体を振り返り、物語のおもしろさやふしぎさを押さえる。

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

- 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は、六の場面を学習することを知らせる。

人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

⑨

二年

めあて

○ えっちゃんの気持ちもそうぞうして、音読のくふうを考えよう。

読み

ああ、よかった。

えっちゃんが帽子をかぶって遊びに行っている挿絵

ああ、よかった。

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

あそびに行くえっちゃんの気持ちもそうぞうする
ることができましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

めあて

やくわりをきめて、音読おんよみげきのれんしゅうをしよう。

れんしゅうする場めん↓五の場めん後はん

(えっちゃんが大男に立ちむかう場めん)

○ 音読おんよみげきのれんしゅうのしかた

- ① これまでに学しゅうした音読おんよみのくふうを思い出す。
- ② やくわりをきめる。
- ③ 自分の読みのめあてをきめる。
- ・ 人物になりきって音読する。

・ 「、」や「。」でのくぎり、「間ま」のとり方も気をつける。

④ グループでれんしゅうをする。

- ・ うごきを入れるところやうごき方について話し合う。
- ・ お互いに聞き合って、ほめたりアドバイスしたりする。

○ 他のグループに見てもらおう

- ・ グループで見せ合って、ほめてもらったりアドバイスしたりする。
- ・ アドバイスしてもらったことを生かして、さらによい音読おんよみげきにする。

【10・11/15 時間目 指導略案】

使用するワークシート⑩

活動のねらい

役割を決めて、音読劇おんよみげきの練習ができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。(十時目のみ)

- 教室の掲示物で、これまでに学習した音読おんよみの工夫を生かして、音読劇おんよみげきの練習をすることを確認する。

2 練習の仕方を知る。(十時目のみ)

- 板書で、練習の仕方を説明し、役割を決める。
- ※ グループの数と構成人数は、学級の実態に応じて調整してよいでしょう。

3 練習をする。

- 音読おんよみの工夫を生かすことができている児童には、「ここはどんな気持ちだったかな？」などと問いかけたり、掲示物を示したりしながら、工夫を生かすことができるように支援する。

※ 練習の場面を録画(音)し、児童に見せる(聞かせる)ことにより、よりよくしようという意識をもつことができるでしょう。

4 グループで見せ合って、意見交換する。

- よいところをほめてもらったり、アドバイスをもらったりして、さらによい音読劇おんよみげきにさせる。

評価 物語のおもしろさを伝えようと音読劇おんよみげきで自分の思いを表現しようとしている。(ア1)

登場人物になりきって工夫して音読している。(イ2)

5 十・十一時目を振り返る。

- ワークシートで自己評価をさせる。
- 次時は音読劇おんよみげきを発表し、お互いに見せ合うことを伝える。

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

⑩

二年

めあて

| |
|--|
| |
|--|

| |
|--|
| |
|--|

| | やくわり | 名前 | 音読のくふう |
|----------------|------|----|--------|
| えっちゃん | | | |
| きつね | | | |
| (のはらこんきち) | | | |
| 牛 | | | |
| (はたなかもうこ) | | | |
| 大男 | | | |
| 地の文 (ナレーター) | | | |

○今日の学しゆうをふりかえりましょう。 ◎よくできた ○だいたいできた △もう少し

グループできよう力してれんしゆうすることが
できましたか。

◎

○

△

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

めあて

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

人物の気もちがあらわれるように、音読げきをしよう。

はっぴようをするじゅんばん

- 1 ①②グループ
- 2 ③④グループ
- 3 ⑤⑥グループ

はっぴようがおわったら

○聞き手グループ

・はっぴようを聞きおわったら、はっぴようグループに、よかつたところをほめほめカードに書いてわたす。

○はっぴようグループ

・まず、グループでふりかえる。
・ほめほめカードをさんこうに、自分のめあてができたか、ふりかえる。

ーねんせいへ

○「おんどくをきいて、えっちゃんたちのきもちがわかりましたか。」にきをつけてみたりきいたりしてください。

よかつたところを、ほめほめカードにかいてください。

【12・13・14 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート ふりかえりシート

活動のねらい

物語のおもしろさが伝わるように、人物の気持ちを考えながら、音読劇をすることができるようになる。

1 本時のめあてを確認する。

○ 音読劇をする目的を確認する。

※ 教材文全体を音読劇にします。三時間のうち、練習時間を一時間、発表を二時間にすることもできます。そのときは、一時間に三グループ発表します。

2 発表の仕方、聞き方の視点を知る。(12時目のみ)

○ 発表者に発表後の振り返りを、聞き手にはほめほめカードの使い方を指示する。

※ ほめほめカードとして、広めの付箋紙を使用するといいでしよう。

○ 演じた誰もがほめほめカードをもらえるように配慮する。

○ 一年生にも視点を伝え、ほめほめカードの記入をお願いする。

※ どの時間に見てもらおうか、事前に一年生の担任の先生と相談が必要です。

3 発表会を行う。

○ 発表の後は、ふりかえりシートを使って、グループの気付きとほめほめカードの

記述内容を参考に、自己評価を書かせておく。

※ 発表前に、自分の名前と役割を紹介させてもよい。

○ 次時に、全体で学習を振り返るときのために、ビデオに録画しておく。

評価 登場人物になりきって工夫して音読している。

お互いの音読のよさを見付けて伝えている。

句読点に気をつけて、平仮名や片仮名、漢字を声に出して読んでいる。

(ウ1)

4 発表会を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ 一年生からのほめほめカードの内容を紹介し、達成感を味わわせる。

○ 次時は、単元全体を振り返ることを伝える。

じんぶつ
人物のようすや気持ちに気をつけて読もう 「ふりかえりシート」

【音読げきのはっぴよう会】

はっぴようをしてグループでふりかえりをしましょう。

自分のかんそう

友だちからもらったメッセージをはりましょう。

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作
めあて

学しゅうぜん体のふりかえりをしよう。

○ 自分ががんばったこと

- ・ 読み方のくふうをべんきょうしたので、えっちゃんの気もちを考えながら読むことができた。
- ・ きつねが、大男をこわがって帰るところは、少し小さな声であわてたように読むことができた。
- ・ 大男は体が大きいので、うごくのもゆっくりだと思って、ゆっくり読んだ。ビデオで見たら、できていたのでよかった。

○ 友だちのよかったところ

- ・ くくさんは、「あたしのぼうしをかえしなさい」のところをとてもおこったように読むことができていた。
- ・ ナレーターさんも、えっちゃんの気もちを考えながら、声をかえて読んでいた。
- ・ くくさんは、べんきょうしたことを生かして、「へんねえ」のところをふしぎそうに読んでいた。

【15/15 時間目 指導略案】 使用するワークシート⑩
活動のねらい

学習発表会のビデオを見て、単元全体を振り返ることができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

2 音読劇のビデオを鑑賞する。

- 鑑賞の前に、次の二点を確認する。

〈自分の姿〉

- ・ 登場人物の気持ちができるように音読することができているか、考えながら見る。

〈友達の姿〉

- ・ 友達の上手なところや工夫しているところを見付けながら見る。

3 単元の振り返りをし、友達と交流する。

- ワークシートに、「自分ががんばったこと」「友だちのよかったところ」を書かせる。

- 全体で交流させる。

- 児童が発表した内容は板書する。

- 音読劇を通して、登場人物の気持ちを考えながら読むことができるようになったことを賞賛する。

評価 お互いの音読劇のよさを見付けて伝えている。

(イ3)

人物じんぶつのようすや気持ちに気をつけて読もう

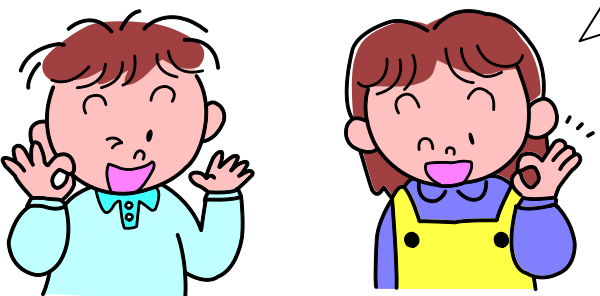
⑪

二年

めあて

○ 自分ががんばったこと

○ 友だちのよかったところ



○今日の学しゆうをふりかえりましょう。

◎よくできた

○だいたいできた

△もう少し

音読げきに楽しくとりくむことができましたか。

◎

○

△